

【施策番号 - 2 - 22】

分野	戦略	子どもたちの「夢への架け橋」となる教育
人が輝くくまもと	重点的に取り組む施策	確かな学力の向上

1 施策の概要 (PLAN)

(1)背景	(4)取組みの概要
<p>熊本県学力調査及び全国学力・学習状況調査では、基礎的な知識・技能については概ね定着が見られる。</p> <p>小中学校の学力に関する県意識調査では、学習内容の理解状況は学年が上がるとつれて低下傾向にあることがわかった。</p> <p>平成20年度の学校基本調査における本県の大学等進学率は、41.7% (全国第42位)と低位にある。</p> <p>教育現場の課題等は年々多様化しており、教員はそれらの対応に追われ、子どもと向き合う時間が減少している。</p> <p>経済的理由で進学を断念する子どもがいる。</p>	<p>【 児童生徒の学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特色ある学校づくりに向けた取組み</li> <li>・進学率向上に向けた教員の学習指導力向上等のプログラム実施</li> <li>・生活環境などから生じている教育格差を小学校低学年からの早い時期に解消するためのシステムづくり</li> <li>・県学力調査「ゆうチャレンジ」の活用等による授業内容の充実</li> <li>・本県独自に開発した英語のCD教材を全中学生に配付し、英語力の向上を図る取組み</li> <li>・退職教員等を活用した学習支援の実施</li> <li>・地域人材を活用した学校支援活動の推進</li> <li>・指導力に優れた教員による授業スキルの伝授や教材等の共有化による教員の資質向上</li> </ul> <p>【 教育の機会均等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済的理由による教育格差の解消(奨学金や授業料減免、私立高等学校の就学支援金、貸付制度等の充実)</li> </ul> <p>【 「熊本時習館構想」に基づく私学支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の多様な進路選択に応じた私学の取組みに対する支援</li> <li>・生徒の意欲や自主性等の向上への支援</li> <li>・教職員の資質向上・負担軽減への支援</li> </ul>
(2)めざす姿	
<p>子どもたちの夢をはぐくみ、その実現に必要な「確かな学力」をはぐくむ教育をめざす。</p> <p>教員が子ども一人一人と向き合える良好な学習環境の整備をめざす。</p> <p>生活環境にかかわらず、すべての子どもが均等に教育の機会を得られるようにする。</p>	
(3)解決すべき課題	
<p>児童生徒の学力に関して、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を解決するための思考力、判断力、表現力の育成が必要。</p> <p>教員の負担軽減を図り、教員が子どもと向き合う時間を確保する必要がある。</p> <p>生活環境などから生じている教育の格差が学力の格差につながっている状況を解消する必要がある。</p>	

2 施策の主な構成事業 (DO)

取組みの概要	担当課	平成22年度事業/決算(千円)	平成23年度事業/当初予算(千円)
児童生徒の学力の向上	教育庁 高校教育課	特色ある学校づくり支援事業 2,654	特色ある学校づくり支援事業 2,441
		「夢への架け橋」進学支援事業 5,778	「夢への架け橋」進学支援事業 8,046
	教育庁 義務教育課	学力向上対策事業 8,486	学力向上対策事業 12,466
		基礎学力向上システム推進事業 1,807	基礎学力向上システム推進事業 2,627
		-	くまもと中学生英語力アップ支援事業 14,169
	教育庁 学校人事課	「夢への架け橋」教育支援事業(教育サポート事業) 63,183	「夢への架け橋」教育支援事業(教育サポート事業) 68,864
	教育庁 社会教育課	「夢への架け橋」教育支援事業(地域教育力を活用した学習向上アドバイザー事業) 1,479	「夢への架け橋」教育支援事業(地域教育力を活用した学習向上アドバイザー事業) 2,419
		地域教育コーディネーター育成・活用事業 20,650	
	教育庁 教育政策課	-	「授業マイスター」認定事業 1,196
		-	教材等共有システムの整備 2,174
教育機会の均等	教育庁 高校教育課	育英資金貸付金 1,172,840	育英資金貸付金 1,229,352
		高等学校等奨学金緊急支援事業 205,475	高等学校等奨学金緊急支援事業 285,720
	社会福祉課	生活保護世帯進学「夢」応援事業 5,207	生活保護世帯からの進学の「夢」応援事業 15,712
	子ども 家庭福祉課	-	要保護児童進学応援事業 4,707
		母子寡婦福祉資金貸付金 121,890	母子寡婦福祉資金貸付金 124,425
	私学振興課	私立高等学校授業料等減免補助 79,258	私立高等学校授業料等減免補助 117,410
	私立高等学校等就学支援金事業 2,362,699	私立高等学校等就学支援金事業 2,586,156	
		-	夢応援進学資金給付事業 2,000
「熊本時習館構想」に基づく私学支援	私学振興課	熊本私学夢教育事業 8,246	熊本時習館私学夢教育事業 13,629
		-	熊本時習館海外大学進学支援事業 2,878
		-	熊本時習館私学生徒支援事業 30,035
		-	熊本時習館私学教職員指導力向上支援事業 2,256

3 施策の評価 (CHECK)

(1)指標の推移						
指標(単位)	策定時	H21	H22	H23	目標値	目標値の説明
1 全国学力・学習状況調査における平均正答率が全国平均を上回る項目数(8項目中)	8項目中6項目(H20)	7(H21)	7(H22)	7(H22)	全項目(8)	全項目で全国平均を上回ることを目標値としている
2 大学等進学率(県全体)(%)	41.7(H19)	42.2(H20)	43.3(H21)	43.1(H22)	47	これまでの上昇傾向より目標値を設定
3 生活保護世帯で大学等へ進学を希望する子どもへの生活費貸付数(件)平成22年度に設定した指標	-	-	7(H21)	8(H22)	希望者のうち要件に該当する者全員	進学の意欲を有する子どものうち要件に該当する者全員を支援する。
	達成度	87.5%	87.5%	87.5%		
	達成度	-	92.1%	91.7%		
	達成度	-	100.0%	100.0%		

(2)指標の分析						
<p>1. 平成22年度全国学力・学習状況調査項目(8項目)において、7項目は全国平均を上回り、残りの1項目(小6「算数(活用)」)も、全国平均と同率となり目標をほぼ達成した。(23年度は震災の影響で、全国調査としての実施は中止)</p> <p>2. 国立大学への進学者数は増加しているが、私立大学、短大等への進学者数が減少し、進学率は0.2ポイント減少した。</p> <p>3. 21年度に引き続き、22年度も目標を達成した。</p>						

(3)平成22年度の取組みの主な成果						
<p>【 児童生徒の学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「夢への架け橋」進学支援事業等の成果として、県立高校で国公立大学の合格者数が前年比139人増加した。</li> <li>・教育サポーターにより小中学校では不登校生が減少、特別支援学校ではケガ・事故等が減少するなど危機管理体制が向上し、教職員の負担軽減が進んだ。また、放課後学習向上アドバイザーを増員。派遣回数が増加し、学ぶ場が充実した。</li> </ul> <p>【 教育の機会均等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活保護世帯の貸付について、全面改正を行い、より利用しやすい制度となった。</li> <li>・私立高等学校設置者に対し、2,083人分の授業料等減免補助を実施。新たに生活保護世帯を対象に入学金の全額減免補助を行うなど補助対象を拡充し、経済的理由による教育格差の解消に向けた取組を進めた。</li> </ul> <p>【 「熊本時習館構想」に基づく私学支援】</p> <p>以下のとおり各種事業に多数の生徒、教員等の参加を得ることができ、時習館構想推進のための私学間の交流の促進や切磋琢磨する意識の醸成等の取組を開始することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学教授等による特別授業、Zoom-トレーニング 講習会、海外大学進学説明会等による生徒への多様な進路選択に応じた支援</li> <li>・生徒向け特別授業、表彰事業、知事出前ゼミ等による生徒の意欲や自主性等の向上への支援</li> <li>・教職員向け研修、公私間の人事交流等による教職員の資質・負担軽減への支援</li> <li>・私学情報サイト(時習館ホームページ)の整備による私学の情報発信、交流促進のきっかけづくり</li> </ul>						

(4)平成23年度の取組方針、取組状況						
<p>【 児童生徒の学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県学力調査「ゆうチャレンジ」の実施、基礎学力向上システムに取り組む学校の拡大、英語のCD教材の全中学生配付等を進めるほか、「くまもと教師塾」、「授業マイスター」等により、教職員のスキル・指導力向上を図る。</li> <li>・教育サポーターや放課後学習向上アドバイザーの増員により、教職員のサポート体制を充実させる。</li> </ul> <p>【 教育の機会均等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活保護世帯への貸付は、更なる制度周知やニーズの掘り起こしに取り組み、引き続き希望者全員への貸付を目指すほか、新たに大学進学者への入学時応援資金の給付を開始する。</li> <li>・児童福祉施設等を退所して大学等に就学する者が安心して就学し自立できるための生活費の貸し付けを開始する。</li> <li>・引き続き、私立高等学校授業料等減免補助を実施する。</li> </ul> <p>【 「熊本時習館構想」に基づく私学支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各私立中学校の連携体制の構築に向け、個別の分野、ニーズに応じた私学間の連携に努める。このため、私学情報サイト(時習館HP)の充実や複数校の連携による大学進学支援事業等に力を入れて取り組む。</li> </ul>						

(5)施策の進捗に関する総合評価						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力・学習状況調査での目標をほぼ達成し知識の定着が見られ、また県立高校での国立大学への進学率も伸びている。</li> <li>・教育サポーターによる支援の結果、不登校や教職員の多忙感の解消等の効果が現れ始めたほか、放課後子ども教室実施校の約7割に派遣する放課後学習向上アドバイザーの活動内容も充実してきている。</li> <li>・貸付を受けた生活保護世帯の4名が卒業。本制度への感謝や後輩へのエールが寄せられるなど、成果が挙がっている。</li> <li>・時習館構想に基づく生徒向け特別授業や教職員向け研修等各種支援メニューを、各私学がそれぞれのニーズに応じて活用することにより、生徒の夢の発見、挑戦、実現の手助けとなっている。</li> </ul>						

(6)施策を推進していく場合の課題						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校低学年からの学習意欲や基礎学力向上等に取り組むほか、進学支援事業等の成果の他校への普及が必要である。</li> <li>・教育サポーターの派遣拡大のニーズに対応するほか、授業の指導効率化のため、外部人材の活用を一層進める必要がある。</li> <li>・生活保護世帯への貸付については、潜在化したニーズや学業継続が困難なケースへの対応が必要である。</li> <li>・時習館構想について、相互に切磋琢磨する意識の醸成・交流の促進を図りながら私学間の連携体制を構築する必要がある。</li> </ul>						

4 今後の方向性 (ACTION)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力向上システムの研究成果の普及を図り、小学校低学年の基礎学力定着に取り組む。また、高校教員の教科指導力向上・教員同士の連携強化のため、進学支援事業や地域進学重点校の取組を更に深化させる。</li> <li>・教育サポーターや地域人材を活用し、児童生徒の生きる力を育む取組を引き続き推進する。</li> <li>・生活保護世帯への貸付について、適時の周知や各種ニーズへの対応を進める。</li> <li>・各私立中学校が独立しながらも時習館の名の下に連携体制を構築することにより、生徒や教職員が切磋琢磨する環境を整え、学力の向上を図る。</li> </ul>						
---	--	--	--	--	--	--